山形県生涯学習センターだより

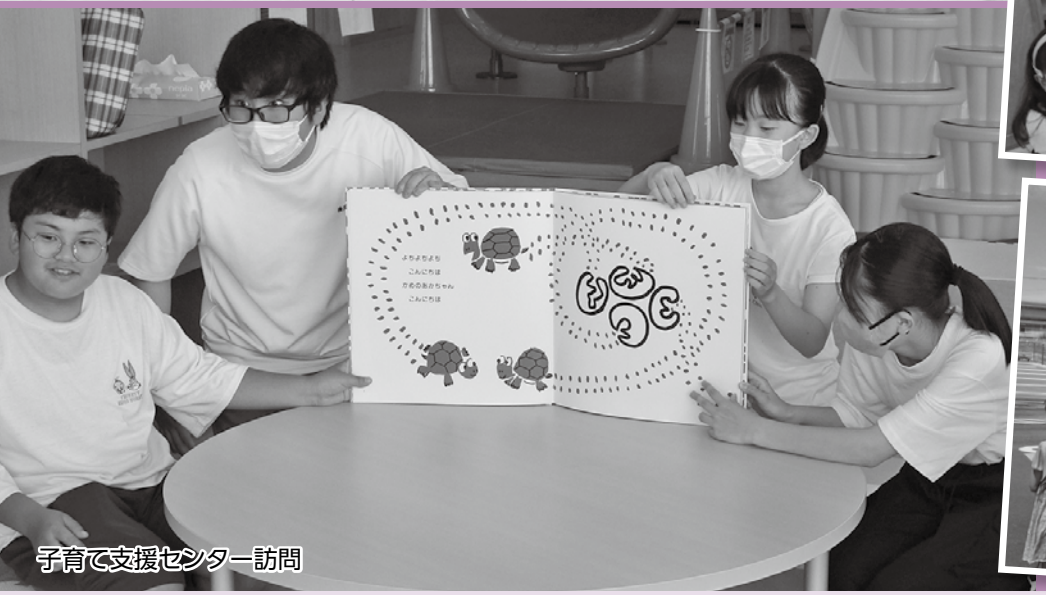
2024.3 Vol. 30

生涯学習やまがた

来夢来人の皆さん

沿岸ごみ拾い

夏休み学童訪問


子育て支援センター訪問

夏休み学童訪問

CONTENTS

❷ 特集
地域の魅力を再発見 ～多世代がつながる地域づくり（中里 秀樹氏）

❺ あなた やまがた たからびと⑱
山科裕一さん（鮭川村）

❻ このまちに注目！
三川町中高生ボランティアサークル 来夢来人
大寺ふるさと守り隊

❼ 事業報告
「山形学」講座/山形県地域づくり実践交流集会
高齢者生きがいづくり・生活支援活動人材育成事業マッチング研修会

❽ Information
山形県生涯学習センター助成制度のご案内、第10回洗心庵写真コンテスト入賞作品展、
遊学館ブックス最新刊『「食」をめぐる山形の地域課題』発刊！

三川町中高生 ボランティアサークル 来夢来人（らいむらいと）

三川町在住者を中心とした中高生有志によるボランティアサークルです。名前の由来は“夢が近づいて来るように歩き出そう”。中高生の仲間づくりを目的として結成され、ボランティア活動の体験と理解を広げることにより、豊かな感性と地域への愛着心を育んでいくことが目標です。「自分で考える」「良いと思ったことは行動に移す」「楽しむ」を大切にしながら活動しています。

→活動内容はP.6へ

特集

少子高齢化による地域活力の低下が危惧される中、地域社会の担い手となる人材の育成と確保が求められています。今号では、子どもたちが郷土に誇りと愛着を持ち、地域とつながる心を育成することを目的とした山形県の取り組みについて、中里秀樹氏より寄稿していただきました。

地域の魅力を再発見 ～多世代がつながる地域づくり

山形県教育局 生涯教育・学習振興課
社会教育専門員 中里（なかざと） 秀樹（ひでき） 氏

1.はじめに

山形県教育委員会では、令和4年度に生涯教育・学習振興課内に「郷土愛育成室」を設置し、第6次山形県教育振興計画（後期計画）の主要施策に掲げる「郷土に誇りを持ち、地域とつながる心を育成する」に関する様々な施策に取り組んでいる。

これまでも、「山形県自作視聴覚教材コンクール」の開催や、民俗芸能の伝承活動等を支援する「子ども伝承活動『ふるさと塾』」の実施、学校での一人一台端末を念頭に置いた「地域を知るポータルサイト」の新設・運営などの諸事業を行ってきた。本年度は新たに「郷土の魅力発見・体験プログラム普及事業」に取り組んでいる。本稿では、これらの概要と実施状況を踏まえ、郷土愛の育成について述べてみたい。

2.「郷土の魅力発見・体験プログラム普及事業」について

本事業を開始する背景には、本県の人口減少と高齢化の進行により、地域を担う人材が都市部に流出し、本県経済の活力の低下、地域コミュニティの衰退といった課題が生じていることがある。本県の持続的な発展のためには、山形のことを思い続け、山形の持続可能性を願う心「郷土愛」を持った若者の育成が不可欠と考える。

加えて、令和2年から令和5年までのいわゆるコロナ禍により、地域とのかかわりを通して「地域の魅力」や「地域の良さ」を体感する機会が減少し、「地域への貢献」という思いが醸成されにくくなってきている。

こうしたことから、今年度新たに中学生が、公民館・コミュニティセンターや地域の大人の協力を得ながら、地域のおもしろさや魅力に触れ親しむことのできる活動プログラムを小学生のために創り一緒に取り組む事業を、県内4地区でモデル的に実施した。本事業は、プログラムに参加した小学生が郷土の良さを再認識し、その後、参加した小学生が中学生になって事業を企画する側になることによって、若い人々が、地域を学び、地域に貢献するという「循環」を形成することをねらいとしている。

3.「プログラム」の実施について

(1)「全県研修会」の実施

5月18日㈭に県生涯学習センターにおいて、公民館・コミュニティセンター職員等を対象とした「社会教育関係職員初任者研修」（県生涯学習文化財団と共催）を実施し、本プログラムの主旨を説明するとともに、熟議の中で、実際に企画・運営を行う際の留意すべきことなどについて、グループワークを行った。

(2) 各地区でのプログラムの実施

全県研修会と前後し、村山・最上・置賜・庄内の各教育事務所社会教育課を通じて、本事業の実施を希望する市町村（公民館・コミュニティセンター）を募った。その結果、今年度については、村山地区では「出羽コミュニティセンター」（山形市）、最上地区では「舟形町中央公民館」、置賜地区では「長井市平野コミュニティセンター」、庄内地区では「大沢コミュニティセンター」（酒田市）で、それぞれ実施することになった。

実施に当たっては、企画側の中学生のみならず、中学生をサポートする当該公民館及びコミュニティセンター職員とも、各教育事務所職員との間で、綿密な打ち合わせを行った。

中里 秀樹 氏 プロフィール

平成5年山形県公立高校教員(地理歴史)として採用。長井高校、県埋蔵文化財センター、山形中央高校、県青年の家、山形南高校勤務を経て、令和4年から現職。様々な事業を通して、県の社会教育・生涯学習の振興に取り組んでいる。

①村山地区

実施日　令和5年10月28日㈯
会　場　出羽コミュニティセンター
事業名　山形市放課後子ども教室ベニっこアフタースクール「秋の木の実でクラフトづくり」
実施主体　山形市教育委員会
実施関係者　参画者4名（中学生3名、高校生1名）、小学生15名（参加者）、協働活動支援員3名、学生ボランティア1名、地域ボランティア2名、県村山教育事務所職員等

実施に向けた準備

◎「ベニっこアフタースクール中高生企画会議」（6月24日・8月4日・9月30日・10月14日）

●体験プログラム当日

9：45～11：45　体験活動
11：45～12：00　振り返り

※当日の運営は参画者1名（中学生）となったが、ベニっこアフタースクールにボランティアスタッフとして参画している協働活動支援員、大学生ボランティア、そして地域ボランティアの方も協力した。

準備の段階から、参画者は参加者が作業しやすい環境を整え、また積極的に参加者に話しかけ、和やかな雰囲気づくりに努めていた。

クラフトづくりが始まると、参加者は多種多様な材料を使いながら、思い思いに作品づくりに取り組んでいた。特に、参画者の想定を超えてイメージを広げて製作に取り組み、交流を深める姿が見られた。また、支援員やボランティアなど、日頃あまり関わることのない地域のいろいろな大人と交流しながら、自分の作品を披露する姿も見られた。

②最上地区

実施日　令和5年12月16日㈯
会　場　舟形町中央公民館
事業名「舟形町MY箸づくり体験講座」
実施関係者　中学生（参画者）6名、小学生（参加者）13名、事業協力者1名（他、舟形町教育委員会職員、県最上教育事務所職員等）

実施に向けた準備

◎準備委員会（11月14日・29日・12月4日）

※舟形町にはシンボルとして「エンジュ」という種の木がある。昔から長生きや延命を意味し、「幸福」や「上品」の花言葉がある。3回の準備委員会の中で、そのエンジュの木を使用したオリジナルの箸を作る活動を行うことになった。

●体験プログラム当日

当日は、箸作りをメインとしながらも、企画した中学生が舟形町に関するクイズを出題したり、公民館の敷地を利用したかくれんぼを行うなどして、楽しく郷土を学ぶ機会を提供することができた。

③置賜地区

実施日　令和5年8月3日㈭
会　場　平野コミュニティセンター
事業名「おきたまジモディ（じもと×Study）プログラム」
実施関係者　中学生8名（参画者）、小学生21名（参加者）、同コミュニティセンター職員5名、平山獅子踊り保存会代表1名、施設利用者約15名（他、長井市地域づくり推進課職員、県置賜教育事務所職員）

実施に向けた準備

◎準備委員会（5月25日・7月30日）

※長井市平野地区には、400年以上前から伝わる「平山獅子踊り」があり、それを後世に伝えようと、昭和53年から「平小獅子踊り」として平野小学校で伝承されてきた。小学校では、5年生の総合的な学習の時間に、地域の方から踊りの指導を受け、6年生において、長井市の地域の祭りで披露している。今回のプログラムでは、獅子踊りについての講義や体験などを通して、地区の歴史や文化を学ぶ内容とした。

●体験プログラム当日

当日は、保存会の方から平山獅子踊りの歴史について講義を受け、その後、中学生が小学生に踊りで使用する笛・太鼓の手本を見せたり、衣装の着方や草履のはき方などを教えたりした。その後、平山獅子踊りに関するクイズを出すなど、参加した小学生は、意欲的に歴史や文化を学ぶことができた。

また、当日は別事業で平野コミセンを利用していた15名程の利用者が見学に訪れ、その後の昼食では、小学生、中学生、地域の方々が一緒に交流する姿が見られた。

④庄内地区

実施日　令和5年8月1日㈫
会　場　大沢コミュニティセンター

事業名
「大沢で　おぉサイコー！な　体験を
～じゅんさいとりにいこうよ～」

実施関係者　中学生4名（参画者）、小学生9名（参加者）、同コミュニティセンター職員3名、酒田市八幡地域・大沢地区集落支援員1名、地域住民ボランティア1名、（他、県庄内教育事務所職員）

実施に向けた準備

◎準備委員会（6月25日・7月30日）

※酒田市大沢地区では、農業用ため池にじゅんさいが自生しており、平成12年前後までじゅんさい採りが行われていたが、一時期途絶えてしまったものの、平成31（令和元）年より復活し、現在はじゅんさい採り体験や販売を積極的に行っている。準備委員会の中で、企画側である中学生から様々なアイデアが出され、最終的に中学生自身も体験したことのないじゅんさい採りを、地域の方々のサポートを受けながら学び、当日は小学生にそのコツを教えながら一緒に体験するという内容になった。

●体験プログラム当日

当日は、午前中に実際にじゅんさい沼に入り、中学生が小学生に採り方のコツなどを教えながら、一緒に体験活動を行った。午後は自分たちが採ったじゅんさいを食べたり、じゅんさい採り体験の振り返りをしたりした。最後に小学生から感想をもらってプログラムは終了した。

4.まとめにかえて ～「郷土愛の育成」とは

当日参加した方々からのアンケートでは、次のような感想があった。

参画者（中学生等）

- 企画から最後までの約2か月、とてもやりがいを感じた。
- 小学生は、私たちが想定していた何倍も上の発想を出してくるので、子どもの要望に応えられるのに十分な環境、材料等の準備が重要だと思った。
- 小学生が、自分たちが企画したレクリエーションを楽しんでくれて、やって良かったと思った。
- 中学3年生になり、勉強で忙しい中、このような会で地域に貢献できて良かった。

参加者（小学生）

- 木の実などでこまをつくるなど、いろいろなもので楽しめるということを教えてくれた。そして、すごくほめてもらえて、とても嬉しかった。私も中学生になったら、たくさんほめたりして、参加した小学生の思い出に残るようにしたいと思った。
- 中学生のお兄さんやお姉さんが優しく声をかけてくれて、嬉しかった。
- 獅子踊りについて初めて知ることがあってよかった。もっと知りたいし、興味を持つことができた。
- （じゅんさいを）はじめは1つしか採れなかったが、慣れてくると採れる場所がわかるようになり、楽しかった。

公民館・コミュニティセンター職員等

- 中学生が協力しながら実施している姿が見られ、中学生自身も楽しんで活動に取り組んでいた。
- 中学生の協力を得られ、事業を進めることができた。
- 参加した中学3年生から、来年は高校生として参加したいという声があり、他の中学生もまた参加したいとのことだったので、高校生まで対象を拡大して、事業内容を検討したい。

アンケートにあるように、参画者である中学生、参加者である小学生、サポート側である公民館・コミュニティセンター職員等の評価は各地区とも概ね好評であり、特に参画者である中学生が、大人達が考え付かないアイデアをプログラムに取り入れて実施したことで、地域の良さを見直し、「子どもの目から見える郷土の魅力」を伝えられるという成果が得られた。また、サポート側である各施設職員においても、事業の企画・運営力の一層の向上に寄与できたのではないかと思われる。

一方、事業初年度ということもあり、実施する施設の決定から実施本番までの時間の確保、企画者である中学生の募集と企画・運営へのサポート、施設職員の役割等の課題も残された。

郷土愛の育成においては、子どもが郷土について知ることはもとより、地域の様々な人々とのかかわりの中で、様々な体験をして、その良さを体感することが極めて重要である。また、地域の持続的な発展のためには、将来、その地域を担う若い人々の考えを取り組みに反映していく必要がある。今後この事業が、地域づくりの中核となる公民館やコミュニティセンターに拡がり、地域の発展と人材育成の循環が形成されるような展開を目指していきたい。

18

あなた
やまがた
たからびと

interview **山科裕一（やましなゆういち）さん**　鮭川歌舞伎保存会（鮭川村）

県内で自ら学び続け、いきいきと活躍している方を「たからびと」として、インタビュー形式でご紹介します。今回は250年の歴史があり、一昨年50年ぶりに土舞台（どぶたい）公演を復活させた鮭川歌舞伎で活躍されている山科裕一さんにお話を伺います。

昨年の定期公演では小学4年生の娘さんと親子役で初共演。娘さんの「楽しかった」との感想に一緒に出演できてよかった。これからも歌舞伎を続けて欲しいと山科さん。

―きっかけは子ども歌舞伎

私の祖父が鮭川歌舞伎保存会の役者で、小学6年生の時に誘われたことがきっかけで、中学3年生まで4年間子ども歌舞伎を続けました。刀を振れることや役を演じることも楽しかったですが、友達と夜に集会所に集まって練習して、終わってからお菓子とジュースをもらうという、普段できない事が許されていることが楽しかった記憶があります。この子ども歌舞伎は、約40年前に地域の野球スポーツ少年団で歌舞伎をやってみるかという話から始まったんですが、今は小学校でも教えるようになり、学習発表会で披露しています。村には歌舞伎以外にもさまざまな郷土芸能があり、3年生は羽沢節（はねざわぶし）、4年生は段の下田植え踊り、5年生は鮭川歌舞伎、6年生は清流さけがわ太鼓に取り組んでいます。小学生の時に、授業の一環として歌舞伎に触れる機会があって、その中から保存会に入りたいという子も出てきてくれて、今年も小学6年生が保存会に入ってくれました。

―役者の半分が若手の秘訣とは…

地元の役場に就職が決まり、また歌舞伎をと思ったのですが、祖父に1年目は仕事を覚えなさいと諭され、2年目に再開。その間に、歌舞伎経験者の先輩などに声をかけて、まずは若手3人で保存会に入りました。保存会の活動として、毎年6月第二日曜日の定期公演の他、依頼に応じて村内外で年5～6回公演を行っています。定期公演では、約1ヶ月前からほぼ毎晩、公民館やふるさと伝承館で稽古して、稽古が終わると懇親を深めているので、家族の協力や理解がなければできないのですが、我が家では毎年のことなので諦められている感じです（笑）。やはり芸事なので座長等の指導のもと稽古はしっかりと、でも稽古が終わったら楽しく飲むということで、地元の先輩や後輩、友達に一緒に歌舞伎をやってみない？保存会に入ればたくさん飲み会ができるから一緒にやろう！ そんな感じで仲間を増やしていきました。誘った仲間が辞めずに楽しく歌舞伎を続けてくれていること、さらにその知り合いや仲間が入ってきてくれていることもあり、今は役者の半分が20代～30代です。座員は小学生から80代の27名、その他に舞台を作ったり着付けをしてくださる方が15名弱、定期公演当日は文化団体連合会の方等も協力していただいています。世代を超えた交流から、いろんな情報を得たり、学ぶこともできていると思います。

―念願の土舞台（どぶたい）50年ぶりの復活

昔は鮭川に4つの歌舞伎座があったんですが、戦争等で衰退し、また盛り上がってきた歴史があります。実際、私が就職して再開した頃は、村内でも知らない人が結構いました。会長や座長から聞いていた神社での土舞台公演もやってみたいと思っていましたが、メンバーの多くは会社勤めで、役者もして舞台も組んで……というのは厳しい。どうすればできるだろうと何年か考えていました。そういった中で、村や地区、文化団体連合会の方々も一緒に、土舞台復活に向けて実行委員会を立ち上げてくださり、保存会50周年にあわせて一昨年50年ぶりに土舞台公演を復活することができました。昔の人たちが演じていた神社での奉納の歌舞伎。いつもの体育館での公演とは違い、自然の中で風を感じながら演じることができて、とても良い経験でした。昨年も鮭川歌舞伎250周年ということで、土舞台公演を行いましたが、今後は何かの記念や節目にできればと考えているところです。

これからも座員の仲間たちと、稽古は厳しく、それ以外は楽しく活動していければと思っています。私達が次の世代に引き継いでいくことで、300年、500年と続いていけるよう、これからも大好きな鮭川歌舞伎を伝え続けていきたいです。

鮭川歌舞伎保存会
Facebook

山形県生涯学習センター 事業報告

「山形学」講座 山形の歴史的成り立ち

7月22日(土)、8月19日(土)、9月10日(日)、9月30日(土)、10月21日(土)遊学館&現地学習

今年度の「山形学」講座は、山形県内の庄内、最上、村山、置賜の各地域を、中世・近世を中心に歴史民俗的な視野に立って成り立ちを振り返り、そこに生きる人々の歩みや暮らしを見つめ直すことを通して、地域の魅力を再発見することをテーマに開催しました。庄内編では武士の町鶴岡と商人の町酒田の関係性を豊富な資料をもとに学び、最上編では新庄藩とこれまで埋もれてきた最上町の馬産の話、地域の風土と絡めた新庄祭りの起源や込められた祈りなどをお話しいただきました。村山編ではボランティアガイドの方から長谷堂合戦の詳細をお聞きした後、最上義光歴史館を見学。置賜編では上杉家と吉良家の関係やキリシタン殉教のエピソード、そして幕領だった高畠町の歴史は受講生の興味・関心を大いに惹きつけました。各回受講生の満足度は高く、県内4地域の特色ある歴史を独創的な切り口から深く学ぶ、有意義な講座となりました。

参加者の声

- 一人ひとりの力は小さくとも、その力を合わせることで時代を動かし、歴史は作られていくのだと改めて思いました。これを契機にもっと地元の歴史を知りたくなりました。地元愛を大切にしていきたいです。

山形県地域づくり実践交流集会 地域づくりへの提言 ～若者達の地域へのまなざしと行動から～

11月4日(土) 遊学館

地域づくりや地域学に取り組む団体や個人が交流し学び合う本集会。高校生、福祉関係者、地域の歴史を学ぶ団体など多様な地域活動をされている方々に参加いただきました。前半のシンポジウムでは各シンポジストより、山形学や地域学、山形県の青年団の歴史、山形県青年の家を拠点に活動しているボランティアサークルの取組みについて、それぞれの視点からお話いただきました。その中で、活動に行き詰ったら方言の「うるかす（水に浸しておく、ふやかす）」のように、うるかすことで活動の全体が見えてきて、積極的な創造性が出てくるのではないか。若者の活動には伴走者である大人が、若者にあたかも「自走」しているかのような「使命感」と「責任感」を育むことが大切であるとお話しいただきました。後半のワークショップでは、グループごとにシンポジウムの感想を共有し、地域づくりでこれから必要な事や自分たちに何ができるかを話し合い発表。活発に議論し交流しました。

参加者の声

- 普段話す機会がない方々とたくさん話し合えました。
- 福祉の分野にも地域学という考えは必要だと思いました。
- 皆さんの活動を知ることができて、刺激になりました。

高齢者生きがいづくり・生活支援活動人材育成等事業マッチング研修会

12月7日(木)・8日(金) 遊学館

高齢者の生きがいづくりや地域の支え合い活動を広げるため、地域福祉関係者が地域でつながりをつくり、支え合いのコーディネートをしていけるような技術や手法、心構え等を、講義・事例紹介・グループワーク等で学ぶ研修会を開催！

1日目は、地域福祉関係者が地域の方々と打ち解けて仲良くなるためのアイスブレイクを多数紹介した他、地域でつながりをつくるポイントや地域福祉をやさしく伝える方法等の講義、地域福祉関係者が日々感じている課題や悩みにこたえるケーススタディ等を行いました。2日目は、高齢者への声がけやアプローチの際の心構えや技術を学ぶ講義、人とつながれる場や周囲の人財についてのアイディア出し、生活支援コーディネーターが住民との会話から問題点をつかみ取るためのロールプレイゲーム、模擬マッチング事業等、実践的かつ体験的に学ぶ、大変有意義な研修となりました。

参加者の声

- 建前ではない本音の地域福祉のお話を聞くことができました。
- 先生方や他の参加者とつながれたことが一番の収穫です！
- 地域づくりの考え方を改めさせられました。業務にいかせるヒントがたくさんありました！
- 明日からの自分のやるべきことが見えてきました。

このまちに注目！ 地域の取り組みを紹介します

三川町 三川町教育委員会 三川町中高生ボランティアサークル来夢来人（らいむらいと） 夢が近づいて来るように

■ 活動内容 ■

保育園訪問や子育て支援センター訪問といった、子どもとのふれあいボランティアを主な活動として20年以上継続している中高生ボランティアサークルです。訪問先では施設を利用している子どもたちと一緒に遊んだり施設の清掃・消毒などの奉仕活動を行ったりしています。その他に町内のイベントや社会教育事業にもスタッフとして協力しています。

コロナ禍をきっかけに始めた「RE：プロジェクト」という自主活動では、赤川を起点に海洋ごみと内陸部との関係を考え、SDGsへの具体的な取り組みとして河川敷や海岸のごみ拾いを行っています。

■ ここが大変 ■

学校生活や部活動など、基本の生活がある中で、会員それぞれが工夫してボランティア活動に参加する時間を作っています。感染症による制限が解除されて以降はますます行事が増え、スケジュール調整に苦労しています。

■ ここがうまくいった ■

今年度は会員が59名（中学生41名、高校生18名）と、記録上最多となりました！中1～高3までいる会員同士が楽しく活動する姿を見せあうことでサークルの人気が高まっているのを感じています。友達同士の声掛けも活動の広がりに効果があったようです。

活動者Voice

最初は興味本位で参加していたけど段々と楽しくなり、様々なジャンルの活動や他の地域の人たちとの活動を通して経験や知識が広がった。自分自身の成長や将来に大きな影響を与えてくれた。（高校3年生男子）

山辺町 大寺ふるさと守り隊 おおてらホタルまつり みんなでホタルを見に行こう

■ 事業内容 ■

例年6月後半の土曜日に「おおてらホタルまつり」を大寺公民館および小鶴沢川で開催しています。昨年は地元の小学生ら約30人が参加しました。ホタルの生態について子どもたちが楽しんで学ぶことにより、きれいな河川を大事にする気持ちを抱いてもらおうと企画しています。

ホタルのお絵描きやモルック体験、屋外でのそうめん食べ放題を行い、大寺ふるさと守り隊員とホタルの生態について学んだ後、ホタルを探しに小鶴沢川へ移動。そこにはたくさんのホタルが美しく舞い、子どもたちの歓声が上がりました。

■ ここが大変 ■

小鶴沢川の河川近くは夜になると真っ暗になるため、子どもたちがケガをしないように、外灯の設置や誘導をしています。また、ホタルは光が苦手なので懐中電灯にパラフィン紙を貼ってなるべく足元のみを照らすように教えています。

■ ここがうまくいった ■

毎年、たくさんの子どもたちが参加してくれるように、様々なイベントを行っています。昨年もたくさんの子どもたちが参加してくれて、ホタルについて知ってもらうことができました。

参加者Voice

- ▶ホタルがたくさんきれいに飛んでいてよかった。（小学生女子）
- ▶川の近くにホタルがいました。すごくきれいです。（小学生男子）
- ▶そうめんを5杯おかわりしました。（小学生男子）

Information Space

山形県生涯学習センター助成制度のご案内

県内の皆様の多様な生涯学習活動を応援しています！
是非ご活用ください！

3月中旬に詳細をホームページに掲載します。
https://www.gakushubunka.jp/yugakukan/promotion/

助成事業	青少年地域学習活動支援事業	やまがた地域創生事業
対象	高校生	市町村・施設･民間団体 または生涯教育関係者
助成対象事業	高校の課外活動として行われる地域学習や地域づくり活動	①地域社会の問題解決につながる事業 ②山形県についての知識をもとにした地域づくりを目指す事業
募集数	8事業	16事業
募集期間※	4月1日～6月14日(予定)	4月1日～5月10日(予定)
事業実施期間	2024年4月1日～2025年2月28日まで	
助成金額	助成の対象となる経費又は 5万円のいずれか低い額	助成対象経費の3分の2（市町村は2分の1） 又はセンターで定めた上限額のいずれか低い額
助成対象経費	講師謝金・講師旅費・賃借料・消耗品費など	

※交付決定事業が募集予定に達しなかった場合は二次募集を行います。内容が変更になる場合がありますので、ホームページをご確認ください。

洗心庵からのお知らせ

一般向け

第10回洗心庵写真コンテスト入賞作品展

一般の部、U-18の部の応募作品の中から、それぞれ今年度の入賞作品が決定しました。下記日程で、入賞作品の展示会を開催します。庭園の散策も可能です。是非この機会にご覧ください。

日　時　3月19日(火)～31日(日)
　　9:00～17:00
場　所　洗心庵多目的ホール(入園･入館無料)
問合せ　洗心庵(下記)へ

編集後記

昨年度の「山形学」講座・フォーラムをまとめた遊学館ブックス『「食」をめぐる山形の地域課題』を発刊しました。給食の歴史、子ども食堂、農業後継者問題、庄内のスマートテロワール、牛の糞尿を利用したバイオガス発電、若手米農家の取り組み、食を活かした実践報告などが掲載されています。是非お読みいただき、身近な食をめぐる課題について考えてみてはいかがでしょうか。(R)

BOOK

一般向け

遊学館ブックス最新刊

『「食」をめぐる山形の地域課題』発刊!

令和４年度「山形学」フォーラム・講座（全５回）の記録集。「食」に着目して山形県内に起こっている事象や問題に目を向け、農・工・商業など多様な観点から食と暮らしを学び、食を通して地域課題の解決策を考えました。

山形県生涯学習センター（遊学館３階）・文翔館・洗心庵、こまつ書店、八文字屋書店、戸田書店山形店、山形大学小白川キャンパス生協店、Amazonで販売中。お近くの公立図書館でもご覧いただけます。

B6版／327頁
定価1,100円

▶バックナンバーはこちらからどうぞ！
https://www.gakushubunka.jp/yugakukan/publication/

編集発行　(公財)山形県生涯学習文化財団　令和6年3月発行

山形県生涯学習センター　〒990-0041　山形市緑町 1-2-36［遊学館］
TEL 023-625-6411（貸館専用TEL 023-676-7182）　FAX 023-625-6415
E-mail yama@gakushubunka.jp
URL https://www.gakushubunka.jp/yugakukan/
▌開館時間　9:00～21:00［夜間利用が無い場合は20:00まで］
▌休 館 日　第1･3･5月曜日、第3日曜日、年末年始

洗心庵［山形県生涯学習センター分館］　〒990-0041 山形市緑町 1-4-28
TEL 023-664-2800　FAX 023-664-2816
▌開館時間　9:00～21:00［夜間利用が無い場合は19:00まで］
　　［12月1日～3月31日までは夜間利用が無い場合は17:00まで］
▌休 館 日　毎週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始

読者プレゼント

「生涯学習やまがた」をご覧いただいている皆さまに、感謝の気持ちを込めて、抽選で3名様へ遊学館ブックス最新刊『「食」をめぐる山形の地域課題』(1,100円) をプレゼント！
左記の山形県生涯学習センター広報紙担当あてに【①お名前・ご住所②入手場所③興味を持たれた記事④内容についてのご感想・ご意見・ご要望】を添えて、はがき・メール・ＦＡＸでご応募ください！締め切りは4月末です。